

校長室から応援メッセージ(その9)

令和6年2月12日(月)

私たちはいつも孤独であるしかない……

皆さん、こんにちは。私立大学の入試が続いています。受験日が次々にやってきて、忙しく、慌ただしい日々をお過ごしのことと思います。国公立大学二次試験も近づいています。今は前だけ見て最後まで駆け抜けてください。広い世界が待っています。私には駆け抜けても何も待っていません……。

「校長室から応援メッセージ」においては、自分の経験を振り返りつつメッセージの内容を考えてきました。その際、45年前の予備校生だった自分を、「孤独や不安と戦っていた……」という、お決まりの形で回想しかけ、いや少し違うな、と思い、戸惑います。孤独や不安はあったでしょうが、戦っていたとは言えず、受験勉強が日常生活となる中でけっこ心は落ち着いていたとも思えます。

誰もが孤独です。人生の出来事は自分ひとりで立ち向かうしかない、そう覚悟して生きるからこそ、折に触れ、人の優しさや人とのつながりの温かさが身に染みるのです。孤独とは、自分を頼りに力強く生きていこうとする、その姿なのではないかと思えます。

私たちは孤独であることに苦しむのではなく、孤独をとらえる視点を間違えて、そこに不安が生まれるのではないのでしょうか。自分をしっかり見つめ、自分と向き合い続けてください。受験は、孤独との戦いでなく、自分との戦い、自分を励ますことなのです。

2月後半…、少しずつ気温が上がり、春めいた陽気になります。気候の変化とともに、これまでの緊張を持続するのが難しくなり、気持ちの落ち着きを失いがちになる時期です。皆さん、最後まで自分と向き合い、自分を励まし、気持ちを奮い立たせてください。

人生は、自分自身を温かく見つめ、励まし続ける長い道のりです。皆さんはこれから年齢を重ねながら幾度も予備校時代を回想し、そして「予備校で過ごした日々の先に今の自分があり、予備校生の自分が今の自分の背中を押している」と感じるでしょう。私は、孤独や不安と戦っていた自分ではなく、第一志望の合否結果などでもなく、予備校に通った日々の生活の真実を回想します。